

防災

問 国土強靱化のための3か年緊急対策における市消防団の取組結果を伺う。

答 「市長」 国庫補助制度が創設されたが、補助対象に示された資機材については、消防車両の更新と合わせて計画的に整備を進めている。本市の消防団活動に有用な資機材整備を対象とする補助制度が創設された場合は、積極的に活用していく。



方向で検討されている。県大会及び海匝支部大会の対応を踏まえ、今後、市消防団幹部役員会において、協議されるものと考えている。

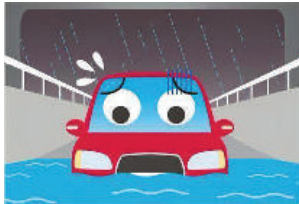
問 市総務課消防防災班の強靱化に向け、災害時の防災業務はマンパワ―であり、日常、市内全域を日夜対応していた消防組合退職者を総務課消防防災班に任用し、防災対応の強靱化を提案する。

答 「総務課長」 他市町村の例を参考にし、任用形態のあり方なども含めて調査研究をする。

問 道路冠水対応について、今年も豪雨による車両の水没や冠水が市内で発生した。対応処置として、水深計などの表示物を設置すべきではないか。

問 他県では操法大会に出場しない団が増えている。大会運営に当たり参加の仕方を考慮し弾力的な運用を検討してはどうか。

答 「市長」 通行車両等への注意喚起を行うとともに、安全な通行を確保できるよう、案内看板及び水深標示について設置を検討する。



山崎 等議員
(創世会)

市民病院



田村明美議員
(日本共産党)

問 匠瑳市民病院の施設の建て替えを求め、市長の考えは。

答 「市長」 これまで、市民病院の経営健全化を進めた上で再度検討したいと、新改革プランの最終年である令和2年度病院事業会計の決算状況を判断材料に、できるだけ早い時期に決断したいと答弁してきた。

平成29年11月(4年前)に新改革プラン・建替整備検討委員会の答申を受けてからこの間、市民病院は、職員ひとりひとりが強い使命感を持って職務の遂行にあたるとともに、一丸となつて経営健全化に取り組んできた。努力の結果として改善の兆しが見えてきたところで、新型コロナウイルス感染症拡大があり、残念ながら健全化には至らなかった。

しかし、市民病院は、地域の中核病院の役割を担い、コロナ禍にあつて発熱外来診療やPCR検査の実施、コロナ陽性患者の入院受入れ、ワクチン接種の中心的な役割等を果たしている。その中で、市民の皆様からの市民病院に寄せる期待の大きさを改めて実感した。

また、施設設備の老朽化が進み、雨漏り等で診療にも支障を来し、患者さんに負担を掛けている光景も見ている。

ことから、熟慮を重ねた結果、建設に取り組むことを決断した。病院事業管理者にその旨を伝え、病院事務局長、関係課長に対し、建設に向けた検討を進めるよう指示をした。



公共交通

問 地域にとって望ましい公共交通網のあり方について、民間と行政が一緒に検討し、マスタープランを策定、事業を実施していく「匠瑳市地域公共交通活性化協議会」が昨年5月に設置されたが、協議はどこまで進んでいるか。また、市の施策方針、計画を伺う。

答 「環境生活課長」 本年3月、活性化再生法に定めた法定計画である、匠瑳市地域公共交通計画を策定した。市内循環バス再編の協議を行う中で、市内循環バス、デマンド型交通、地域交通(タクシー)利用料助成事業を合わせた公共交通体系を検討することになった。

具体的な事業計画案へのパブリックコメントを実施した上で、本年度内に計画を策定する予定である。